



PG-STEAMER 製品紹介

この章では PG-STEAMERの特徴と操作における共通ルールをご紹介します。

A. 製品構成

本製品PG-STEAMER(以下PGS)は、リモートセンシングから地理情報システム(GIS)までの機能を幅広くカバーしたオールインワンソフトです。アイコン選択のみの直感的な操作がおこなえます。

B. 起動/終了方法

PGSの起動は、デスクトップのアイコンをダブルクリック、または Windowsスタートメニューから行います。最初に現れますウィンドウを「メインウィンドウ」()と呼びます



(1) スタートメニューからの起動方法

Windows画面のタスクバーより **[スタート]** **[プログラム]** **[Pixoneer PG-STEAMER4.1]** **[PG-STEAMER 4.1]** をクリックするとメインウィンドウが立ち上がります。

(2) 終了方法

メインウィンドウ右隅の**[Quit]**アイコンをクリックすると、PGSを終了します。

C. メインウィンドウについて

メインウィンドウは上下二段構成となっています。

上段は**メインメニュー**(目的ごとに8セクション)。下段は**サブメニュー**(実行機能)。



データ管理・検索 : Catalog
 2次元表示・編集 : Image Composer
 GIS処理 : Vector Composer
 3次元表示・編集 : 3D Composer

レイアウトデザイン : Map Composer
 ファイル入出力・編集 : Tools and Utilities
 画像処理 : Image Processing
 標高データ生成・編集 : DEM Tools

メインメニューの ~ を選択すると、各ビューワーが起動し、そこから表示・編集をおこないます。**メインメニュー**の ~ を選択すると、**サブメニュー**が切り替わり、各アイコンからさまざまな処理を実行します。

D. 専用データフォーマット・XDMフォーマット

PGSでは、すべての画像データを専用データフォーマット(XDM)に変換してから解析をおこないます。さまざまな形式の画像データをXDMに統一することで、よりスピーディーな処理を可能にします。このXDMからJPEG、Tiffなどの汎用フォーマットや他ソフトウェアフォーマットにも再変換出力もできます。

データの取り扱いの流れのイメージ



解析せずに表示するだけであれば、汎用画像データ(BMP、JPEG/JPEG2000、GeoTiff/Tiffなど)を変換なしに直接表示することもできます。解析処理をおこなう場合は、必ずXDMに変換が必要です。Shape、DXF、KMLなどベクタデータは、変換なしに表示編集ができます。

PGS専用フォーマット各種

ラスタ画像系：

- .xdm PGS専用 画像フォーマット(主として使う形式です)
- .xhm PGS専用メタデータフォーマット(XML)(.xdmと対になって使います)

ベクタデータ系：

- .xvc PGS専用 ベクタフォーマット
- .xpt PGS専用 独自テキスト型ポイントベクタフォーマット(X Y Z値+属性)
- .mdb PGS専用 属性データベース(MS-Office Accessフォーマット)

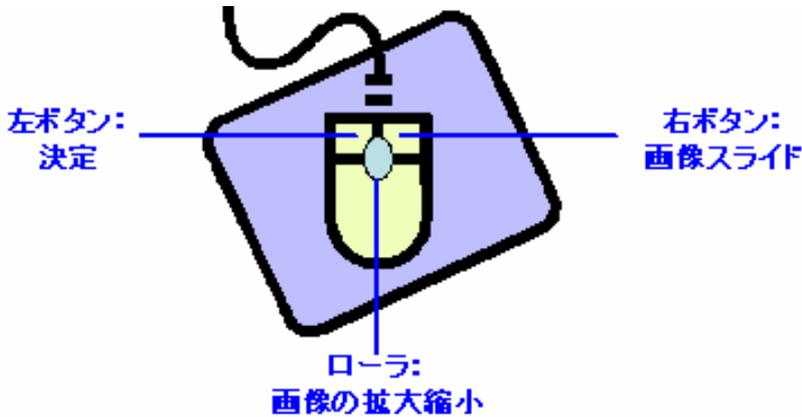
その他

- .idp プロジェクトファイル(行った処理や表示の設定を保存し、再現できます)
- .imp レイアウト機能MapComposer用のレイアウトファイル(作成したレイアウト設定の保存)
- .pal パレットファイル(画像の色付けを行うカラーパレットファイルです)
- .3ds 3次元表示機能3DComposer用の立体オブジェクトデータ
- .mtd ASCII_Multi_Target_Data (Path Analysis 用経路データ)
- .txt テキストファイル(さまざまな情報をテキストファイルとして出力できます)

E. 基本共通操作 (すべての処理の共通操作です)

「表示した画像の拡大縮小・スライド」

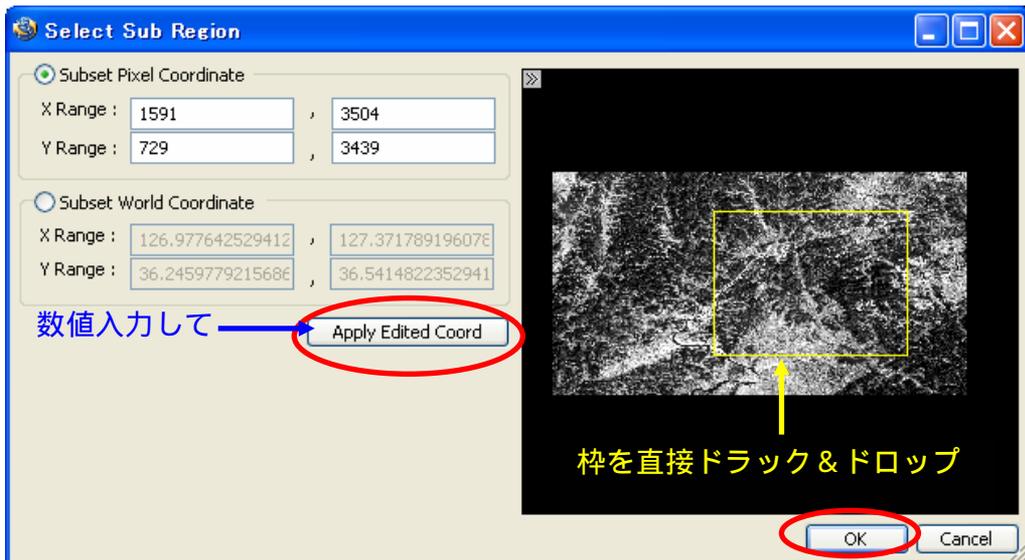
マウスカーソルを表示した画像の上にあててマウスで操作します。



「処理の対象エリアを指定」

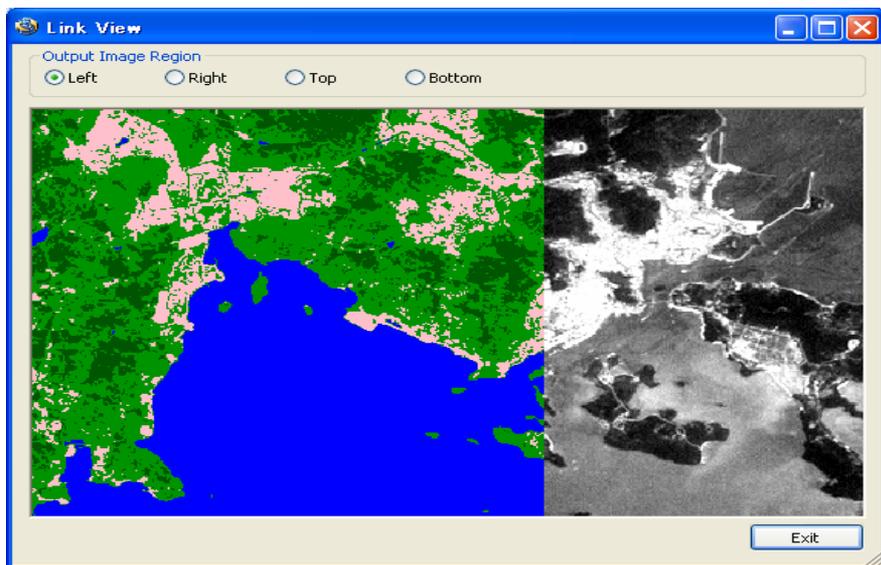
サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 アイコンから下記ダイアログを表示させると、画像全体のうちの処理をおこなうエリアを指定できます。

指定方法は2通りで、A: 数値入力、B: 画像の黄色い枠をマウスで縮めることで指定できます。



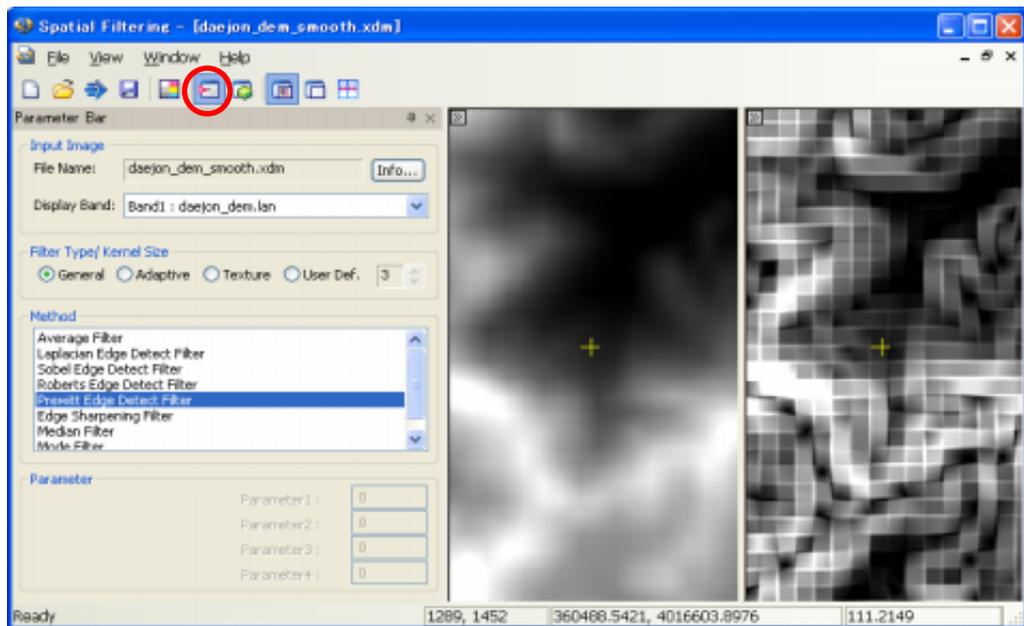
「処理結果を重ねて比較」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 アイコンを押すと、元画像と処理結果画像を重ねたビューワが現れ、マウスでスライドして比較できます。



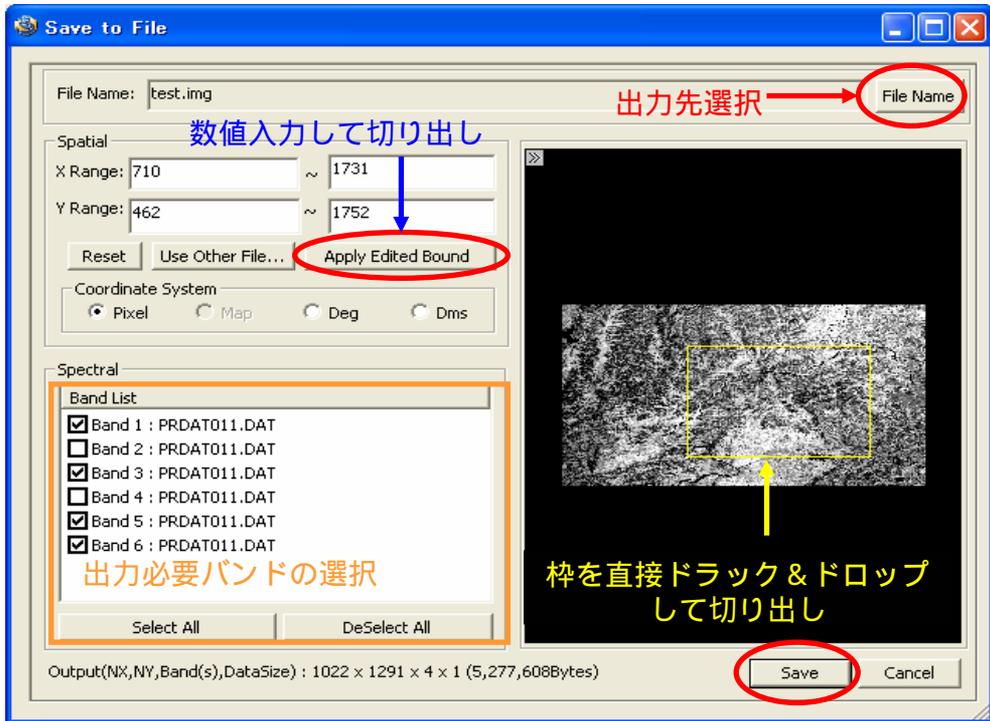
「処理結果をチェッカーで比較」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 アイコンを押すと、元画像と処理結果画像の上にチェッカーをリンク配置し、画像間の同一箇所を比較できます。クリックで移動します。



「処理結果のファイル保存」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 アイコンを押して下記ダイアログを表示させ、処理結果のファイルを“xdm”や“Tiff”フォーマットに保存できます。(その他のフォーマットへの変換出力は、別途サブメニュー“Export Image”でおこないます。チュートリアル2章参照。)



-  で保存先と保存するフォーマット(XDMかTiff)を指定します。
- 必要な場合は、**Spatial** 欄へ数値入力、または右ウィンドウの黄色枠を縮めることで、一部を切り出して保存できます。
また、 から別の画像やベクタデータを読み出し、それらと同じエリアだけを切り出すこともできます。のちに鳥瞰図として重ねるなどの際、対になる画像に合わせて切り出すと有効です。
- 必要な場合、**Spectral** 欄のチェックを外し、不要なバンドを除いて保存することもできます。